

第100回 経営協議会 議事要録

日 時 令和8年6月25日（木） 15時00分～16時47分

場 所 本部棟第二会議室・オンライン

委 員 日比野克彦 学長【議長】、
大塚直哉 理事（教育担当）、岩田広己 理事（研究担当）、
君塚 剛 理事（総務・財務・施設担当）・事務局長、
武藤弘和 理事（経営改革・財務担当）、福中冬子 音楽学部長、
御立尚資 委員、湯浅真奈美 委員、吉本光宏 委員、高橋陽子 委員*、
*…委任状の提出あり

陪 席 国谷裕子 理事、麻生和子 理事、前川祐賀子 監事、茂木哲也 監事、
杉本和寛 副学長（研究担当）、
毛利嘉孝 副学長（国際連携担当）・大学院国際芸術創造研究科長、
海老 洋 副学長（伝統継承・150周年担当）、
藤原道山 副学長（伝統継承・150周年担当）、
橋本和幸 美術学部長、桐山孝司 大学院映像研究科長、
松下 計 附属図書館長、黒川廣子 大学美術館長、
伊藤達矢 社会連携センター長、亀川 徹 演奏芸術センター長、

欠 席 林 千晶 委員、二宮雅也 委員、矢内 廣 委員、
光井 渉 副学長（教育担当）【陪】、
箭内道彦 学長特命（大学改革・ブランディング戦略担当）【陪】、

議題

- （1）教育研究等に係るデータ分析による自己点検・評価について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
- （2）中期目標・中期計画の進捗状況に係る自己点検・評価について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

- （1）令和8年度予算について
標記のことについて、武藤理事から資料に基づき報告があった。
- （2）令和7年度財務諸表について
標記のことについて、武藤理事から資料に基づき報告があった。
- （3）令和7年度資金運用状況報告及び令和8年度資金運用計画について
標記のことについて、武藤理事から資料に基づき報告があった。

(4) 本学の活動近況等

議長から、芸術文化における本学の近況について報告があった。

(本学の活動近況等：令和8年3月～6月)

- ・奏楽堂の現状と進捗について
- ・「映像リサーチセンターDoCK」の始動について
- ・アカンサス倶楽部の近況について
- ・音楽学部におけるピアノ更新事業について
- ・法人スポンサーシップ制度について
- ・みずほフィナンシャルグループとの連携について（東京藝大アートフェス in NY）
- ・国立教育政策研究所と資源の有効活用等に関する連携協定を締結

(主な意見等)

- 自己点検・評価の形式的な細かいチェックリスト方式（KPIの確認）に終始することで、大学本来の目標との整合性や優先順位が形骸化することが懸念されるので、今後の計画見直しにおいて、実績をより俯瞰的に捉え、大学のミッションにどう貢献しているかという総合的な評価の視点を設定する等、議論すべきではないか。
- 自己点検・評価においては、収支構造と、中期計画や学長ミッションによる新規事業を連携させて整理することが必要ではないか。また、社会との共創が自己収入の獲得ソースになっている点に触れ、これらの事業が大学の目指す教育目的にどうつながっているかを示すことで、経済的価値以外の価値も見せていけると良い。
- 国際戦略に関わるKPIは大きく達成されているものの、詳細に見ると「学生の語学力の低下傾向」や「送り出す留学生と受け入れる留学生の数のバランス」といった課題が存在する。本来のミッションに向けた進捗をより可視化する必要があるのではないか。
- ゲーム・インタラクティブアート専攻や映像リサーチセンターといった時代に即した新しい取り組みは評価できる一方、それによって従来からある音楽や美術の基礎的教育が目立たなくなることを懸念している。特に音楽研究科の一部の分野の定員割れについて、しっかりと検討していく必要があるのではないか。
- 寄附に関する具体的な取り組みが進展し、具体的な成果として現れている。これまでの寄附者への再度の働きかけ（掘り起こし）や、より一層の企業からの資金の呼び込みを推進してほしい。
- 日本の文化芸術の継承や次世代育成プログラムに対して、海外の個人から億単位の寄附が申し出られるケースがある。藝大のニューヨーク基金なども活用し、海外の文化支援者へリーチアウトしていくべきではないか。

以上